

口は健康のもと Vol.129

歯茎の硬い膨らみ —「外骨症」の疑いも—

前回は入れ歯が原因で起こる「できもの」の話をしてきましたが、今回は歯茎にみられる「骨の病気」の話です。

入れ歯が合わなくなる原因のひとつで、しばしばで見かける病気に「外骨症」というものがあります。一般的に上あごの口蓋といわれる骨の真ん中や下あごの奥歯の内側にできる局所の骨の過剰発育でできる硬い突起のようなものです。入れ歯が合わないだけでなく、硬い食べ物で粘膜に傷がつきやすくなることや、発音の邪魔になることがあります。しかし、短時間で大きくなることはありません。

治療の必要はありませんが、何度も入れ歯の調整をしてもなかなかお口の中にくっついてこない場合や、入れ歯の安定（特に下あご）が必要な場合には、切除しなければなりません。その場合は、まず、担当の先生とよく相談して口腔外科の専門医を受診してください。小さいものであれば外来で手術することが可能で、手術後約1週間で抜糸し、傷が落ち着いたら、入れ歯の型を取るようになります。

この病気は歯ぎしりや噛み締め癖と関係があるともいわれています。術後はマウスピースやかみ合わせの治療を検討してみてもいいかもしれません。



奥羽大学歯学部附属病院
口腔外科 助手 赤城 陽一郎

